
beatnic

L i t a l y

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

b e a t n i c

【Nコード】

N 4 1 4 8 E

【作者名】

L i t a l y

【あらすじ】

リズムが聴こえる。聴こえるから。望むのは勝利じゃない。本当の人生だ。

一昔前、ズボンの片一方の裾を捲くのが
この国でえらい流行った。

アメリカのヒップホップから流れてきたファッションだ。

僕はあれをする日本人がずっと大嫌いだった。

おしゃれだ。
かっこいい。

みんながそうやって真似をする。

理由なんていらない！かっこいいから！
だってそう感じたんだから、感じた事、それが全てさ！

そんな彼らを見て、僕は幾らかうんざりする。

毎晩の銃声。

それを子守唄に眠るのが当たり前のスラム街。
今より幾らか昔のアメリカ。

当時のアメリカ、特にスラムには人種差別やらドラッグやらが溢れ
返っていて、とても治安が悪かった。

銃の引き金を引くか、友達を薬漬けにするか。
生き抜くためには小銭が必要だ。

さあ選べと二択。

それ以外に生き抜く方法はない。

少なくとも貧民街で生まれた「異人」には。

そんな時代。

その街ではスプーンを上手く扱える人間より、銃を上手く扱える人間の方が多かった。

銃声。

銃声。

ところで、ビートはどこからやってくるんだろう？

リズム、音、躍動。

それはどこからやってくる？

ああ。

ああそうだった。

鼓動。

銃で撃てば人は死ぬ。

わずか数ミリの鉄の塊の介入で止まるビート。

音、音、音。

歌詞をメモった手帳なんてとくに破れて無くなった。

でもたいした問題じゃない。

言葉なら溢れてる。

生きること。

沸いてくる言葉。

ああ。

レコードはいらない。

それはいつでも、ただここにある。

鼓動。

音。

ビートを愛した男はズボンの片一方の裾をめくり上げる。
そこに忍ばせた一丁の拳銃。

深呼吸をする。

覚悟は決まった。

右足のズボンの裾に忍ばされたそれを、おもむろに掴み、川へ放り込む。

ああ、ほら。

聴こえた。

ビート。

平和の証。

僕は、あなたを攻撃する武器を持たない。

銃弾の飛び交う街の中で、生き抜くためには武器が必要だ。

それでも自分は武器を持たない、という証明。

自分が撃たれても、それでも自分は人に銃を向けないという決意と

覚悟。

片足だけめくり上げられたズボン。

己の命を賭してビートを愛した男が最初に始めた、最高にクールなファッション。

ビート。

そこに確かな覚悟があったから、それは一つのムーブメントになった。

僕は今時のヒップホップミュージシャンの名前を一つだって挙げる
ことが出来ないけど、ヒップホップは嫌いじゃない。

だって、僕はヒップホップミュージックを聴いたことがないけど、
僕の胸にはビートがいつも流れてる。

ここに刻まれてる。

だから僕は嫌いだ。

それを真似する人が。

理由も事情も知らずに、覚悟も無くそれを真似る連中が。

だって彼らの銃口はいつだって誰かの額を向いてる。

なのに「平和への覚悟」を形だけで真似する。

だから、嫌いだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4148e/>

beatnic

2010年12月30日03時44分発行